

ルチオ・フルチの ホラー・ハウス (1989)

THE SWEET HOUSE OF HORRORS
LA DOLCE CASA DEGLI ORRORI

メディア 映画

ジャンル ホラー

製作国 イタリア

時間 83分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

強盗に両親を殺害された姉弟の面倒を見るため、叔父夫婦がやって来た。彼らはつらく当たるところか子供達に優しく接するのだが、二人は親として受け入れようとしない。そんな或る晩のこと、子供部屋に殺された両親の霊がやって来て……。哲学やテーマ性など無い作風が魅力のL・フルチだが、「ルチオ・フルチの 地獄の門2」や、この作品では“家族の絆”を描こうとしたフシがある。誰もこの監督に、そんな物を求めてはいないのだが。数少ない見所と言えば相変わらずの超グロシーンと、初めの方の神父様の妙なボケぐらい。“不可能を想うとき、童心に帰りたい。不可能に届くのは子供だけだから”というナサニエル・ホーソンの言葉が冒頭テロップで出るが、ホーソンは、『緋文字』、『七つの破風の有る家』などで有名なアメリカの文豪。ピューリタンで至って道徳的だが、怪奇を愛する心の持ち主だった。かつてホーソンの『ラパチャーニの娘』という作品を、あの水木しげるが漫画化した事もある。

【クレジット】

監督	ルチオ・フルチ	Lucio Fulci
脚本	ヴィンチェンツォ・マンニーノ	Vincenzo Mannino
撮影	ニーノ・セレステ	Nino Celeste
音楽	ヴィンス・テンペーラ	Vince Tempera
出演	ジャン・クリフトフ・ブリティゲニーレ シンツィア・モンレーレ	Cinzia Monreale